

	<p>McBeath Institute Aging Women Project (ds595)</p> <p>「女性の加齢に関する研究」</p> <p>マディソン/50歳以上の女性/1年後(別プロジェクトで14年後)</p>	<p>マディソンのウイスコンシン大学の Faye McBeath Institute on Aging and Adult Life で1977年に開始されたプロジェクト。</p> <p>加齢の学際研究の必要から企画され、老齢女性に影響を与えている問題を研究することに焦点をあてる。</p>	<p>インタビュアーを受け、自記質問票をいくつか記入。</p> <p>人口学的項目、精神的・身体的な健康、独身に関して、職歴、結婚および家族、住居など、友情、関係中の平等性、サービスの利用、大きな生活の変化、団体組織への所属、政治意識。</p> <p>コーピング能力へのパーソナリティの要因や社会的な絆の強さのかかわりや、高齢女性の全般的な健康 (well being)。</p> <p>変数：属性、精神的・身体的な健康、過去についてどう思うか、生活ストレスとしての冬、老化・死および死んでゆくことの意味、家族への意識および義務、離婚と家族関係、友情、教育や老人プログラムに対する態度。</p>	<p>2000年：健康の項目。1980年に訊ねたものと同じものを含む。成人した子どものパネルも含む。1980年に19-55歳で結婚している人、2000年では39-75歳の人。</p> <p>1978年夏。マディソンの5つの国勢調査地域50歳以上の480人の女性のランダムサンプル。年齢、結婚区分、生活状況、収入および教育の背景を代表する。</p> <p>480人の女性の2分の1は第1のスケジュールに、残りの半分の人が、第2のスケジュールに任意に割り当てられた。</p> <p>第2波は1979年夏。</p> <p>1992年にフォローアップ調査がなされた(Robert, A1009を参照)。</p>	<p>(1997年の追跡では427人)、1997年では220人の子どもが参加。</p> <p>初回参加者の400人(83%)</p>
7	<p>Medicare Current Beneficiary Survey, Access to Care, Calendar Year 1992: [United States] [ICPSR 6332]</p> <p>http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06332.xml</p> <p>「メディケア受給者調査—ケアへのアクセス1992年」</p>	<p>メディケア受給者調査シリーズ。高齢者と障害者に対する、受給に関連する多目的調査。(United States Department of Health and Human Services, Health Care Financing Administration)</p>	<p>年に3回、何年かに渡り、調査。在宅・施設の入居者を含む。</p> <p>1993：人口学的属性(生年月日、性別、人種、教育、軍経験、婚姻状況)、健康状態と機能、ケアへのアクセス、ケアを受ける場所と満足感、保険適用の状況、経済的資源、家族サポートなどをたずねる。</p>	<p>メディケア登録者から、サンプル。45未満, 45-64, 65-69, 70-74, 75-79, 80-84, and 85以上。85歳以上と64歳以下の障害者をオーバーサンプル。</p> <p>107の1次抽出区から選ばれた。1992年の4回目調査には1991年調査の10388人と新規の1995人が含まれる。1995人はサンプル数を維持するために追加された。</p> <p>1993年7回目データには1-4全てに回答した10936人。1927人が7回目で追加。</p>	<p>12,383</p>
8	<p>Medicare Current Beneficiary Survey, Access to Care, Calendar Year 1993: [United States] [ICPSR 6637]</p>				

8	出生児生活イギリス	<p>最も重要なものについては、締め切りや目標の日程、やらなければならないからやっているのか、やるべきだと思っのか、やりたいからやるのか、自分のため、他の人のため、あるいは両方をたずねる。6つの課題を重要性によって順序付けをし、時間を家庭、仕事、健康の分野に分けてもらう。郵送調査では、中期発達調査を使用。健康の面で思い通りになると思う度合い、現在、過去、将来の健康の評価、重い病気の既往歴、身体的健康状態。精神的健康、過去6ヶ月における自分、配偶者等、親、子どもに起きたストレスのかかる事柄、うつ、地域への参加、家庭、仕事、生活満足感。</p> <p>様々な尺度を使用。 Ryff Well-Being Scales, the Eysenck Personality Inventory, the Staudinger and Baltes Wisdom Scale (1995), and the Ways of Coping Scale</p>	<p>家族、仕事、健康について、一番いいこと悪いことを話してもらおう。どのよう生活を手放さずしてきたか、一番困難なこととどのように対処してきたか、日々やっていくために一番助けになったことは。面接の最後に写真をとる。</p> <p>3波：1波でたずねた重要なことについてたずねる。中期について意識（何歳から、いつ終わるか、最も大きな変化、よい点悪い点、中年より若いと思うか、年老いていると思うか、中年期危機"midlife crisis"を感じた知り合いはいるか、自分自身はどうか、26の領域について何か問題があるか、どの程度の問題があるか、どの程度ストレス、あるいはコントロールできる感覚を持っているかなど。5年以上学校から離れた後、学位のとれる教育プログラムに入ったか、現在生涯学習などに参加しているか、勉強することが家族仕事健康に影響しているか。</p>	<p>選挙区に基づくサンプリング。2000年1月から2001年8月31日の間にイングランドとウェールズで生まれた子、2000年11月22日～2002年1月11日の間にスコットランドとアイルランドで生まれた子のサンプリングを追跡。出生児が9ヶ月の時に調査がされた。子どもの貧困の子どもが多く住む地域、</p>	<p>目標 20646人、18819人の子どもについて回答 (18533家族)</p>
1	Millennium Cohort Study (MCS) 2000年- http://www.esds.ac.uk/longitudinal/access/mcs/ 「ミレニアム世代調査」 イギリス全国/2000-2002年の出生児/9ヶ月～毎年予定	<p>イギリスにおいて、21世紀に生まれた子どもとその家族に關して、多目的で多方面で活用できるデータセットを作成するため。長期的な追跡を計画。およそ19000人の出生児の母親あるいは主たる保育者と父親(あるいは主たる保育者の他のパートナー)への面接調査(自記式部分あり)。</p>	<p>第1回目：妊娠と出産の状況、人生のはじめの数ヶ月の重要なことから、子どもが生まれた家族の社会的背景などをたずねた。回答者は出生児の母親(主たる保育者)：エスニシティ、出生児の父親、ひとり親かどうか、妊娠、つわり、出産、乳児の健康と発達、保育、祖父母や友人からのサポート、親の健康、教育、資格、就業状況と収入、住宅、地域のサービス、子どもを伴うあるいは伴わない時間、他の関心。自記式の部分では、乳児の性格や行動、パ</p>	<p>選挙区に基づくサンプリング。2000年1月から2001年8月31日の間にイングランドとウェールズで生まれた子、2000年11月22日～2002年1月11日の間にスコットランドとアイルランドで生まれた子のサンプリングを追跡。出生児が9ヶ月の時に調査がされた。子どもの貧困の子どもが多く住む地域、</p>	<p>目標 20646人、18819人の子どもについて回答 (18533家族)</p>

			<p>トナーとの関係、以前の関係、家事、過去の妊娠、精神的健康、親密関係・親業・仕事に対する意識。父親（主たる保育者のパートナー）への質問の多くも、回答者のものと共通。</p> <p>夫と妻の現在の教会およびコミュニティ活動、人口学的属性、地理的、経済的情報、配偶者に対する態度と満足感、牧会に関連する、また関連しない社会的義務および活動。</p> <p>第2波は、オーブンエンドの質問で、雇用、家および家族、個人的成長および充足、ゴールおよび価値観、およびメンタル・ヘルスなどについて。第3波：査定価値観およびゴール、自分と配偶者の記述、弱点などについて調べた。第4波：夫と妻（N=105）のかかわりかたのパターンを評価した。また、優先事項、フラストレーションおよび教会と家族の問題に関する満足感。</p> <p>第3、第4波参加者のうちの数人はさらに下記標準メジャーを完成した: study of values, Myers-Briggs vocational inventory, Edwards Personal Preference Schedule, and Minnesota Multiphasic Personality Inventory (MMPI).</p> <p>*第1波：13007世帯には、9637世帯と、追加でサンプルされたグループ。（主たる回答者のインタビュイー）（調査項目については、下記を参照）</p> <p>*第2波：主たる回答者 10007人、配偶者・同居しているパートナー5624人へのインタビュイー。（内容ほぼ同じ。）第1波参加者と離別した人については、その相手789人をインタビュイー。第1波で13-18歳、2波で18-23歳の子ども1090人をインタ</p>	<p>エスニック・マインオリティの多くに住む地域が多くサンプルに入るように設計。</p> <p>調査票のプレテスト、パイロットテスト、修正を4波で行なった後、(1959-1960)70項目の自記式質問票が7,978人の牧師の妻に郵送された(37人のプロテスタント教派からの20分の1のクロスセクション)。およそ60%(4,777人の女性)が1961年に質問票を返送した。</p>	<p>第1波:7978人のうち4777人(約60%) 第2波:623人 第3波:夫370人妻411人 第4波:105人</p>
牧師の妻の意識	<p>Ministers' Wives (ds11) 1959-1963年 「牧師の妻の調査」 プロテスタント牧師の妻/4 回</p>	<p>神学校に関する関連研究が、1962-1963 (N=110)行なわれた。「神学校研究パイロットプロジェクト」と名づけられたその研究は、ガイダンス・マニユアルの開発のために、神学生とその妻と家族のニーズを定義することを試みた。</p>	<p>1 8</p>		
家族構造・生活	<p>NSFH National Survey of Families and Households, 1987-1988; National Survey of Families and Households, 1992-1994 [ICPSR 6906] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06906.xml http://www.ssc.wisc.edu/nsfh</p>	<p>アメリカの家族に関する調査。家族の構造が変化し続ける中、家族構成、家族生活のありかたをみる。</p>	<p>3 8</p>		

			<p>ビュー。第1波で5-12歳、第2波で10-17歳の子ども1415人には、内容を少しかえて電話でインタビュー。主たる回答者が死亡あるいは病気でインタビューするのに困難な場合は、配偶者あるいはその他の人の代理人インタビュー(802人)。主たる回答者の親1人を無作為で選択し、インタビュー(3348人)。</p> <p>*第3波：第2波での調査の対象となった子どものいる人について、電話調査では、主たる回答者、1波の時の配偶者か同棲パートナー(3波時点で関係が続いているかに関わらず)、2波で実際にインタビューしたかには関わらず、対象となった子ども(18-33歳)。2波で対象となった子どものいない人は、45歳以上の主たる回答者、その回答者の第1波時点での配偶者・同棲パートナー(第3波時点での関係に関わらず)。</p>	<p>プエトリコ、チカノ)、ひとり親、ステップチルドレン、同棲している人、近年結婚した人は、2倍の確率で抽出されるようにした。</p>	<p>から死亡した人を除いた人数を分母として計算)： 回答者本人第3波調査完了55%(2波回答者に対する66%、2波に無回答だった人に対して22%)病気で回答できない場合を含む代理人による回答と部分的に活用できる調査票を含めると57%(2波回答者に対する68%、2波に無回答だった人に対して23%)</p>
<p>NSFH 調査項目： ●第1波：</p>	<p>家族構成と、家族員の関係(結婚・離縁歴、養育権の取り決め、養育家族の関係。親、子ども、義親との関係の質、経済状況(賃労働による収入、自営の収入、利子等、年金、社会保障制度、公的扶助、養育費、感謝料など。性別、年齢、婚姻区分)。 主たる回答者：家族構成、経歴、結婚と同棲歴、1人目の配偶者の背景、妊娠出産歴と予定、子どもの行動の問題、子ども育成の困難、子どもの教育達成希望、子どもからの離別、配偶者・パートナーの子どもの問題。 ひとり親の世帯)：子どもを一人選ぶ。一緒にいない親についての情報(居住状況、婚姻区分、他の子ども、子どもと親の接触、回答者の子どもの親との接触、子どもに関するもめごと、居住、面会権、養育費、感謝料に関する法的取り決め、養育費の支払い状況。 継子・パートナーの子どものいる場合：子どもを一人選ぶ。子どもと一緒にいない親・パートナー居住状況、子どもとの接触、養育費。 生物学的なつながりのない親が世帯内にいる場合：子どもを一人選ぶ。子どもとの親の居所、子どもとの接触、養育費について 19歳未満の同居していない子どもが同居している場合：いつまで同居していたか、現在の居住地、他の親について、居住地、婚姻地位、他の子どもにも関するもめ事、居住、面会権、養育費、感謝料に関する法的取り決め、養育費の支払い状況。 配偶者・パートナーの19歳未満の同居していない子ども：いつまで同居していたか、現在の居住地、他の親について、居住地、婚姻地位、他の子ども、配偶者との接触、子どもに関するもめ事、居住、面会権、養育費、感謝料に関する法的取り決め、養育費の支払い状況。 子ども、継子で19歳以上同居、あるいは大学在学中で別居：通学状況、奨学金など、回答者の貢献、子どもの居住状況、子どもの仕事と収入、子どもからの</p>				

生活費等の支払い状況、回答者の子どもにかかるお金。

19歳以上の子どもで、在学中ではないが他でくらしている：子どもの年齢、婚姻、子どもはいるか、親との接触状況。
社会経済的屬性(M484-M506)：人種、宗教とその活動状況、最近の引越、親の職業と教育、回答者の小さいときの生活保護を受けていたか。
教育歴(M507-M521E2)：高等学校卒業の有無、卒業後の教育歴、学位と資格。

兵役歴 (M523-M527F)

仕事について(M528-M591C)：職歴、現在の職業、労働時間、収入、副業、仕事のスケジュール、通勤、仕事中の保育、1988年時点での職業経験、50歳時での職業。

収入、資産、負債。収入、他の同居親族との経済的関係、親や親族と暮らす回答者、初めて購入した家について、家族間金銭的やりとり、資産と負債、調査員観察。

●第1波：主たる回答者への質問項目：

・世帯内での仕事：9つの家事作業について、回答者、配偶者、他の世帯員がかかる時間。

生活の質：役割遂行、健康状態、社会参加、ソーシャルサポート。幸福感、鬱状態尺度、役割の評価、健康全般、アルコール、薬物関連の問題、身体的精神的機能、世帯外からの支援源、社会活動、団体等への参加状況、世帯外の人へからの助け、成人した子どもからのへの助け。

親と同居することに関する考え：親と同居している回答者について、同居全般の評価、親に支払う金額、将来の居住プラン、親と対立すること、自分が出た場合の生活の変化の予想。

離婚と離別経験 (1977年1月以降離別離婚した回答者について)：どちらが言い出したか、相手との現在の関係、過程でのサポート源、離別前の相手の収入、口論や身体的なげんか、デート開始について、相手が離別前に他の人につきあっていた状況、現在のつきあい、離婚による生活の変化。

結婚同棲に対する意識：35歳以下の結婚同棲していない者に対して：結婚による期待される変化、結婚の時期についての考え、結婚に対する考え、性交渉の頻度、同棲に対する考え。

同棲関係について (同棲している回答者)：結婚の予定、関係の質、役割分担の公平性、一緒に過ごす時間、性交渉の頻度、相手と意見の合わない分野、離別する可能性、同棲に対する意識、結婚による期待される変化、結婚の時期、結婚の形式、結婚式の形式、役割分担の公平性、一緒に過ごす時間、性関係の頻度、相手と意見の合わない分野、意見の対立の場合の対処、身体的けんか、分かれたとしたらの変化、離別する可能性。

出生についての考え (39歳未満の女性、独身の44歳以下の男性、既婚男性で妻が39歳未満の人)：子どもを持つことについての考え16項目。
親業 (5歳未満の子どもについて)：子どもと過ごす時間、しつけ、子どもの行動で望むこと、継子を育てることに関して。

親業 (5-18歳の子どもが1人以上いる)：子どもとの食事、子どもと過ごす時間、しつけ、回答者の若者のグループへの参加、子どもの行動で望むこと、継子を育てることについて。

成人した子どもが同居していることに関する感じ方 (成人した子どもが同居している世帯について)：同居の状況についての評価、子どもとの食事、子どもと過ごす時間、子どもが出た場合予想される変化、親と意見の不一致の内容、子どもとの楽しいとき、難しいときの頻度、回答者の子どものもので将来の居住地の見直し、身体的けんか。

子どもとの関係 (回答者または配偶者に子どもがいる場合)：子どもとの関係の評価

親、親戚等、意識 (全員)：母親について、父親について、継父継母について、きょうだいについて、義父母について、意識全般。

●第2波

家族構成：生年月日、婚姻区分、家族構成の詳細、世帯主、配偶者がいない場合の理由。

他にくらす娘息子 (回答者と配偶者双方)

子どもの出入り (回答者と配偶者双方)：

<p>ケア：世帯全員の長期的な身体的精神的状況、ケアを必要とする人がいるか、12ヶ月内にケアをしたか、受けたか(同居していない者から)、同居している者から。</p> <p>親との関係：父母、配偶者の父母、継父母について：生死の別、死亡年、健康状態、関係、婚姻区分、居住地、接触の頻度。第1波での生死、以来同居したことがあるか、回答者の親について第1波以来回答者のきょうだいの同居、施設等への入居経験、全てのおやについて一過去1ヶ月に受けた・した援助、入院、心身の健康、収入。</p> <p>親との同居：第1波と2波について、同居していないかあった時期、同居をやめた日と理由、同居をはじめた日と理由、同居の経験など 成人した子どもとの関係：19歳以上の子どもから受けた援助、子どもを援助した経験(過去1ヶ月) きょうだい：数、義兄弟、義姉妹、異母異父きょうだい、物理的距離、接触の頻度 祖父母：子どもに子どもがいる人全員：孫の数、一番上の子の年齢、過去12ヶ月に孫がとまった泊数、12ヶ月での接触頻度、関係の質、6ヶ月以上面倒をみたかどうか。</p> <p>新しい配偶者について：親の家族の親密さ、父母の教育、人種/民族。第1波調査時での状況。 結婚・同棲・デート・死別：1波以降の結婚・離婚・死別の年月日、同棲の開始および解消、結婚した人については相手の相手がいる場合は結婚・同棲・つきあう可能性、死別の場合、死因、病状や必要だったケア、住んだ場所、他の人からの助け、最後の働いた日、配偶者が1波で回答していない場合、その人についての情報。</p> <p>妊娠出産：50歳未満の女性ならびに50歳未満の妻/パートナーのいる男性：1波以降の妻子、養子、現在妊娠しているか、将来の出産予定。 5-17歳の子どもに関する項目(問題があるかをたずね、どの子どもについてか尋ねる形式)：育てるのが楽か困難か、長期的な健康、精神的心理的問題、学校をやめたか/3ヶ月以上休んだか、留年したか、警察が関わる問題があったか、無断欠席等があったか、結婚せずに妊娠したか/させたか、1波以来、セラピーにかかったか。</p> <p>調査対象の5-17歳の子どもに関する項目と結果：健康状態、身長体重、学年、平均成績、運動スポーツ、芸術デザイン、音楽、技術などに長けているか、親が子どもが受けるべきだと考えている教育程度、友人、一対一で活動したか(1週間)、罰、30日で話した頻度(子どもが悩んでいること、子どもがうれしがつていること)、1週間で子どもを抱きしめたキスした、お尻をたたいたこと、その影響、家でひとりである機会があったか、回答者と子どもの学校に関する接触、通っている学校、回答者の学校とのかかわり合い、テレビについて、家の手伝いと小遣い、その他の収入、子どもの稼ぐお金のうちの貯金の割合、運転免許、車所有の有無とアクセス、デートの状況、目に見える意見の不一致、関係の質、回答者の親と子どもの関係。</p> <p>調査対象の18-23歳の子どもについて：一緒に過ごす時間、目に見える意見の不一致、けんかになる可能性があるか、避ける話題があるか、関係全般、意見の不一致の際の対処、関係の質、子どもの学校、関係、職業に満足か、子どもと話す度合い、その影響、同居している場合、その状態、子どもが部屋代や食費をいれるか、その額、回答者がどのくらい子どもに費用を負担しているか。</p> <p>5歳未満の子どもについての問題の項目：育てやすさ育てにくさ、長期的身体的、精神的心理的問題、1波以来精神的な問題でセラピストにかよったか。 新しく調査に加わった対象となる5歳未満の子どもについて：健康、身長体重、幼稚園にはいる準備はどうか、食べているときの行動、睡眠と食事のパタン、泣いたりすねたりすること、一対一で過ごすかどうか、テレビ、就学前学校について、一日何時間育児とかわるか、回答者と子どもの関係。</p> <p>一緒にいる子どもとの親で同居していない人について：回答者の以前の子ども、子どもが生まれたときの状況、現在の結婚同棲は内でのことも、離れている場合はその距離、仕事と収入、子どもとの接触、相手方の祖父母、相手の親の影響、子どもについて話す頻度、もう一方の親に満足か、養育費、面会権と養育費の取り決め、もうひとりの親について：上と同様</p> <p>居住歴：1波以来住んだ所、引っ越しの詳細など。 宗教：信仰、儀式に出る頻度 教育歴：1波以降の変化、各学校入学の年月日、フルタイムかパートか、学位と年月日、兵役。 職歴：1波以降の変化、変わった場合の年月日、フルかパートか、働いていなかった時、仕事を探していたか、継続している場合労働時間。 現在の仕事：主たる職業、労働時間、雇用主、職業、賃金、在宅勤務、副業、通勤時間とその回数、副業について、時間、季節労働かどうか、自宅勤務</p>	
---	--

の状況、スケジュール、時間と日、過去52週間で働いた週、失業していた週、この4週間職探しをしたか、前の仕事の賃金、職業、50歳のときと同じ職業か、配偶者の職業。

収入、資産、負債：年収、世帯の16歳以上の人の年収、1987年以來公的扶助をうけたか、親や成人した子がいる場合、彼らから受け取る額、払う額、回答者の払う生活費、お金の貸し借りや贈与、家の購入、支払い状況、親戚や友人からの借金や教育費として受け取る援助、回答者が払う援助、相続、家、不動産、自動車、貯金額、投資額、負債とその返済、毎月家賃など。

調査員観察：家の構造、調査中いた人、回答者の理解力、協力度、関心、調査が中断された頻度、相手との信頼関係の状態、調査対象の子どもや親の調査のための連絡先、連絡先、調査日時。

●第2波：自記式の部分：

家事；健康とウェルビーイング；最近の結婚の解消など；未婚で同棲していない人には結婚で予期され変化や現在の交際状況、望む子ども数、労働時間；同棲している人にはその関係の評価、幸福感、家事お金労働の分担の公平感、一緒に過ごす時間、性関係の頻度、意見の変化、関係の安定性、望む子ども数と労働時間、結婚の予定、意識全般；結婚している人に、関係の評価、幸福感、家事お金労働の分担の公平感、一緒に過ごす時間、性関係の頻度、意見の対立、別れた場合予期される変化、関係の安定性、望む子ども数と労働時間；対象となった5-17歳の子どもについて、問題や機嫌を計る尺度、教育、仕事、キャリア、お金、結婚、子ども、リーダーになる、近くに住むなど、子どもの達成目標の重要性；調査対象の0-4歳の子どもについて、問題行動・機嫌の尺度；親である人について、子どもと過ごす時間、重要な決定について話す頻度、子どもの意見のために決めごとを変える頻度、家族の記述；5歳未満の子どもの親について、発達に関する尺度；家族に関する意識、社会参加と仕事（全員）一同棲、結婚、結婚の安定性、家族への義務、親業、未婚の親、退職、社会参加、受けた援助与えた援助、医療保険と年金、退職について。

●第2波：親へのインタビュー

世帯の構成、回答者の婚姻区分、年齢、教育、子どもと孫、配偶者がいない場合はその理由、世帯員、子どもとの接触、他でくらす子ども、関係性の総評価。

結婚；結婚した年月、離婚、死別、離別の年月、結婚していない場合結婚の予定。

健康とウェルビーイング；幸福感、家計についての心配の頻度、健康状態全般、結婚幸福感、活動を妨げる身体的精神的状態、うつ状態、アルコール使用、親子の義務についての考え、社会参加、協会活動。

ケアを受ける・与える；各人の長期的な身体的精神的状態、介護を必要とする人がいたか、回答者が12ヶ月内にケアをしたり受けたりしたか（同居人から・同居していない人から）

親との関係；父母、配偶者の父母、継父母について；生死の別、死亡年、健康状態、関係、婚姻区分、居住地、接触の頻度。第1波での生死、以来同居したことがあるか、回答者の親について一第1波以来回答者のきょうだいとの同居、施設等への入居経験、全てのおおやについて一過去1ヶ月に受けた・した援助、入院、心身の健康、収入。

成人したすべての子どもとの関係；19歳以上の子どもから受けた援助、子どもを援助した経験（過去1ヶ月）、長期的な身体的症状、長期的な精神的心理的症状。

きょうだい；数、義兄弟、義姉妹、異母異父きょうだい、物理的距離、接触の頻度

祖父母；子どもに子どもがいる人全員；孫の数、一番上の子の年齢、下の子の年齢、過去12ヶ月に孫がとまった泊教、過去12ヶ月での接触頻度、関係の質、6ヶ月以上面倒をみたかどうか

現在の仕事；回答者と配偶者について、就労状況、働いていない場合、最後はいつか、通常の労働時間、職業、過去52週で働いた週、失業していた週、収入、資産、負債；年収、世帯の16歳以上の人の年収、お金の貸し借りや贈与、家の価値、不動産、自動車の価値、貯金額、投資額、負債とその返済、毎月家賃など。

●第2波：10-17歳の調査対象の子ども

・学校；生年月日、学年、過去一年間でものを盗まれたりドラッグをすすめられたりなどのことがあったか、学校の成績、クラブ活動、宗教活動、その他の地域活動に費やす時間、教育達成目標、職業の達成目標。

8	National Child Development Study (NCDS) http://www.esds.ac.uk/longitudinal/access/incds/	人間の発達を生涯にわたって追跡が実施されている。身体的、教育面、社会性の発達とそ	出生、幼児期、思春期の発達、保育、医療ケア、健康や身体に関するデータ、学校、家庭環境、親のかかわり、認知的および社会的発達、家族関係、経済活動、収入、教育や資	1958年3月3-9日に生まれた17000人余りの追跡調査。これまで6回の調査。1965年7歳	1999-2000年調査では、14902人目録、11419人が回答。
4					

友人と心理的健康：友人、子どもの友達が家にくる頻度、交際、性行動、自己自尊心、見通し。活動と意識：テレビ、喫煙、飲酒、マリワナ使用、結婚、出産の見通し、生活全般の評価。親ときょうだい：実親と暮らしているか、暮らしていない場合誰と暮らしているか、親と過ごす時間、親が抱きしめたりキスしたりするか、親がどう回答者に影響しようとしているか、批判と賞賛、きょうだいの数と関係、家でひとり過ごすこともあるか、親がふだん子どもが誰とどのように過ごしているか、お金をどうつかっているか、自由になる時間をどう過ごしているか、回答者である子どもの教育達成の希望、親との関係、家族の雰囲気。いない親について：接触、訪問の予定の変更、どう影響があるか、親を尊敬しているか、関係全般。両親と過ごした時間、いない親の賞賛と親との関係全般。

生物学的親との関係（どちらの親とも同居していない場合）：父母との接触、父母の賞賛と関係全般。祖父母：生きていては誰か、母親側との接触と関係全般、父親側との接触と関係全般。

第2波：18-23歳の対象の子ども生活状況と経歴：現在の居住状況、婚姻区分、世帯人の名前、性別、年齢、婚姻区分、回答者との関係、親の経歴一実父母と6ヶ月以上離れたことがあるか、4ヶ月以上一人暮らしをしたか、親と住んでいない場合それはどうか。

婚姻歴：結婚回数と年賀び、はじめと現在の配偶者、配偶者との結婚前の同棲の状況。教育：高等学校卒業か、卒業の予定（12ヶ月以内）、予定している教育達成、成績、高校卒業後の教育、成績、学位と資格とその年。交際状況：30日間でのデートの回数、過去12ヶ月でつきあった人の数、決まった相手がいるか、結婚の予定。妊娠出産について：子ども数と各生年月日、誰と住んでいるか、妊娠しているか、子ども欲しいか、初めて子どもをもつとしたらどのくらいうれしいと思うか。

母親との関係：接触の頻度、意見の不一致、口論けんか、関係全般、関係の各側面についての感じ方、子どもの学校、関係、仕事にどのくらい満足しているか、親に話しやすいか、受けた影響。年齢、宗教、経済的事項：生年月日、宗教、就学の費用の出所と額、義務である活動、職歴、現在の仕事、達成目標、配偶者の仕事、回答者と配偶者の12ヶ月の収入、貯金、カード等の負債、他の負債。

父親との関係：接触の頻度、意見の不一致、口論けんか、関係全般、関係の各側面についての感じ方、子どもの学校、関係、仕事にどのくらい満足しているか、親に話しやすいか、受けた影響、両方の親と一緒にいかにする頻度。パートナーとの関係：結婚幸福度、安定性、同棲している人は結婚予定、相手との関係幸福度、安定性。ソーシャルサポート：友達と過ごす余暇時間、何かあった時に相談したりできる人の数（親以外の親戚ふくむ）。意識と心理的ウェルビーイング：性役割、親業、結婚、離婚、家族への義務、自尊心、ウェルビーイング全般、学業で達成、キャリア見通し、経済的状況、余暇時間、友達との関係、健康、恋愛、容姿などの満足感、健康全般、身長、体重、鬱尺度、など。

性行動と薬物：性行動、喫煙、飲酒、マリワナ使用、飲酒問題、薬物濫用の人と住んだことはあるか。継父母との関係：同居したことがあるか、接触、意見の不一致、口論けんか、関係全般、関係の各側面に対する感じ方、子どもの学校、関係、仕事にどのくらい満足か、親に話しやすいか、受ける影響。きょうだい、祖父母、調査の詳細：きょうだいの数、関係、関係、母方・父方の祖父母との接触や関係、調査日。第3波：主たる回答者と配偶者に対する調査の内容：第2波とはほぼ同様。

<p>連 ・生活</p>	<p>「全国子どもの成長に関する調査」 イギリス全国/7、11、16、23、33、41-42歳/これまで6回</p>	<p>の関連要因を調べる。 Centre for Longitudinal Studies at the Institute of Education in London</p>	<p>格取得、住宅などについて、調べた。</p>	<p>1969 11歳 1974 16歳 1981 23歳 1985 33歳 1999-2000 41-42歳 (1970 birth cohort study と統合して実施)で実施。</p>	
<p>若者 ・教育 ・キャリア</p>	<p>National Education Longitudinal Study, 1988 [ICPSR 9389] First Follow-up (1990) [ICPSR 9859] Second Follow-Up (1992) [ICPSR 6448] Base Year through Third Follow-up, 1988-1994 [ICPSR 6961] Base Year Through Fourth Follow-Up, 1988-2000 [ICPSR 3955] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03955.xml 「全国教育縦断調査 1998 (1990, 1992, 1994, 2000)」 http://nces.ed.gov/surveys/inels88/ 全米/8年生/2年後/4年後/6年後/22年後</p>	<p>初等教育機関を出て、高校、大学、キャリアと以降する際の経験を集める。教育の過程とその結果に関して、政策に関連する情報を集める。早期、後期の退学を早期あるいは後期に予測する、学生の各種プログラムへのアクセス、機会の平等性等を把握する。1988年の8年生を2年ごとに追っていく。(1980年の調査との比較によって、高校生の変化を捉えることもできる。)</p> <p>(United States Department of Education. National Center for Education Statistics)</p>	<p>・1988-1989年度：親フアイル：教育達成や参加を決めると思われる背景に関する情報(家族背景、社会経済的地位、家の教育システムの特徴) 学校：1988年冬と春に、調査に参加した生徒の通う学校についての情報。 成績、試験のしくみ、学校文化、学業的雰囲気、プログラムや設備、親との関係と参加、教員や職員の性質、 学生：学校の勉強、目標、人間関係、読解、数学、理科、社会などの教科の基本的な達成。 教員：生徒の性質、クラスでの様子、カリキュラムや授業、教員の人口学的属性、他の教員、生徒、親との関係、 ・1990年調査(1990.1-7, 1991.1-6) 生徒調査：家庭と学校の環境、授業や課外活動への参加、現在の仕事、学生としての目標、将来目標、自分についての意見。 10年生時の達成、1988年からの進歩(数学、理科、社会、読解)。 学校：教育環境。前回と同じ。 退学関連：出席、退学の要因、自己認識と態度、仕事の経歴、学校スタッフ、仲間、家族との関係。 教員：生徒の評価、生徒の性質、クラスでの様子、カリキュラムや授業について、教員の人口学的属性、他の教員、生徒、親</p>	<p>1988年春に8年生だった人。 2段階化確率抽出。 全国から高校を1734選り、そのうち1052が参加。815は公立、237は私立。次に学生を選んだ。選ばれた26435人のうち、24599人が回答。 1992: 1991-1992年に12年生だった学生の確率サンプルであるために、サンプルが活性化された。1989-90年度に10年生でなかった人も含まれた。1990年と1992年の間に退学した生徒についても確率サンプルした。 1990年：21,000人の学生が抽出され、親の調査が追加された。 1992年：学校記録の部分も含む。 1994：1988年春時点で8年生だった人、1989-1990年度に10年生だった人、1991-1992年に12年生だった人、1994年時点で高校卒業後2年たった人。 2000: 1月～9月：</p>	<p>1988: 24599, 1990: 20,706, 1992: 21,188, 1994: 14915, 2000: 12144</p>

	<p>族か近親者によって回答。住宅、長期介護、主な活動での介助、慢性的症状、認知的機能、医療ケアの利用、医療保険について。</p>		<p>境の適応のための配備の状況)をみる、高齢者対象の第2回縦断調査(全国健康に関する面接調査:第2回高齢化に関する調査2波(1997))のベースとすること。</p> <p>(United States Department of Health and Human Services, National Center for Health Statistics)</p>	<p>追跡 1986, 1988, 1990 年。SOA、メデイケア利用データとのリンク可能。</p>	<p>NHIS 1984年調査では16148人を調査。 55歳以上の施設に入っていない人を対象とした。 地域に住む 1984年 70歳以上。SOA 参加の 80歳以上の世帯が選ばれる。世帯から、80歳以上全員とその親戚で70-79歳以上が選ばれた。次に70-79歳がいる世帯が選ばれ、ブラック全員とその親戚で70-79歳が選ばれた。上のグループで選ばれなかった世帯で、世帯全員が白人か、他のブラック以外の人種が、無作為に半分選ばれた。。 1986年は縮小、88,90年は元抽出された人に戻って調査。</p>
<p>健康・医療サービス</p>	<p>ch.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03526.xml 「1994年全国健康に関する面接調査:第2回高齢化に関する調査2波(1997)」</p> <p>National Health Interview Survey, 1994: Second Longitudinal Study on Aging, Wave 3, 2000 LSOA II [ICPSR 3807]http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03807.xml 「第2回全国健康に関する面接調査、第2回高齢化に関する調査3波(2000)」</p> <p>全米/高齢者 70歳以上/3年後/6年後</p>	<p>動態統計では得られない人口学的、社会的経済的、健康状態別の死亡率を求め、機能状態や暮らしの状況の変化をみる、医療ケアの利用をみる。機能的に自立して暮らす、介助を得る、施設に入る、死にいたるまでの経過を記述する。</p> <p>United States Department of Health and Human Services, National Center for Health Statistics</p>	<p>動態統計では得られない人口学的、社会的経済的、健康状態別の死亡率を求め、機能状態や暮らしの状況の変化をみる、医療ケアの利用をみる。機能的に自立して暮らす、介助を得る、施設に入る、死にいたるまでの経過を記述する。</p> <p>United States Department of Health and Human Services, National Center for Health Statistics</p>	<p>7527人 14513病院記録 5191病院外のメデイケア利用記録。</p>	<p>8 7</p>

健康	National Health and Nutrition Examination Survey I: Epidemiologic Followup Study 1982-84 [ICPSR 8900] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/08900.xml	1971-75 年全国健康と栄養調査に参加し、25-74 歳だった人の追跡調査。ベースライン調査で測定した事項と特定の健康状態や機能不全の発生との関連を調べる。	1982-1984 年調査は 5 段階で行われた。すべての対象あるいは代理人を追い、動態状況を把握する。死亡した対象の死亡証明を集める。第 3 に調査、第 4 に追跡調査。第 5 に関連のある病院や介護施設から、疾病や ECG を含む記録を集める。 1986 年調査では、前回の調査時からの健康と身体機能状況の変化を調査。対象者は 65-89 歳。前回以来の動態、健康、身体機能、医療ケアの利用、前回調査が 1982-1984 か 1971-1975 年か。家族構成、診断を受けた疾病に関わる症状について、死亡について、身体機能不全、医療サービスの利用、調査員観察。 1986 年：心臓バイパス手術、ペースメーカー、地域サービス利用を追加。1982-84 年に調査しなかった人は、喫煙、飲酒、視力、聴力、運動、体重、妊娠と月経歴をたずねた。入院した 2021 人の医療機関の記録も集めた 1982-84 年以來死亡した 2266 人のうち 661 人の死亡証明書を収集 (国際疾病分類 9 版によってコード)。 1987 年：健康状態と身体機能の変化について調査。 1992 年：面接部分は、健康経歴 (けが、日常生活の習慣、視力、聴力、医学的症状、運動、体重、ガンの家族歴、手術、喫煙、飲酒、医療ケアの利用を含む)。	アメリカの施設等に入っていない一般市民 1-74 歳を確率抽出。1971-1975 年に、全国多段階率抽出で 1-74 歳 N = 31,973 を選んだ。高齢者と低収入層、妊娠中の女性をオバーサンプル。 1982-84 年：始めの調査時に 25-74 歳であった 14407 人を追跡。1986 年調査：高齢者に焦点を当てる。1971-75 年のベースライン調査の際、55-74 歳で、1982-84 年に死亡していなかった人 (N = 3,980) を調査。30 分の電話調査実施。対象者 2558、障害等のために回答不可能の人の代理人 469 人、死亡した対象者の代理人 581 人 1987 年調査：(ICPSR 9854) は、死亡していない人全員を調査。1992 年調査：前回調査以来の、健康と機能の変化を再調査。	1982-84 年: 14407 人 1986 年: 55-74 歳検査を受けた 5677 人、死亡確認されていない 3980 人。 1987 年: 動態と追跡 14407 人、医療機関記録 7361 人、死亡データ 3108 人、面接データ 9998 人。 1992 年: 動態と追跡データ 14,407 人、面接データ 9281 人、死亡データ 4497 人。
8	「全国健康と栄養調査 1: 疫学的追跡調査 1982-84 年、1986 年、1987 年、1992 年」 全米 / 高齢者・全年齢 / 4 年後 / 5 年後 / 10 年後	(United States Department of Health and Human Services, National Center for Health Statistics)			
介護	National Long-Term Care Survey: 1982, 1984, 1989, 1994, and 1999 [ICPSR 9681] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/09681.xml	慢性的な障害や死亡について、健康面と行動面の要因を探る。インフォーマルケアについても調査していることが特徴。	障害等の尺度、医学的状況、教育レベル、収入 1999 年 (2004 年も予定) が、遺伝的分解のために血液等を収集。健康状態の決め手となると言われているタンパク質を調べるため。	全国の地域および施設に入っている人をサンプル。65 歳になると対象になり、死亡あるいは追跡不可能になるまで継続。各波で、サンプルを 3 分類するためのスクリーニングがある。障害を持たない、障害をもつが地域に居	約 5 年おきに実施。 1982, 1984, 1989, 1994, 1999, 2004 年
8					
9	http://nltcs.cds.duke.edu/obtain				

	<p>data.htm</p> <p>「全国長期介護調査」</p> <p>全米／高齢者／約5年置き・5回</p>			<p>住、障害を持ち、施設に居住。各波の間に5000人が死亡するため、前波以来65歳になった人を追加する。</p> <p>予算の関係で、障害をもたないグループは継続できず、合計が20000人になるように調査された。75歳以上、95歳以上が頻繁に補充された。65歳以上の人について補充調査も実施。ケアをする人の調査も実施。</p> <p>1982年と1984年の間、1994、1999年の間に死亡した人については、近親者調査が行われた。2004年にもケアをする人への調査を予定。</p>	<p>学生データ 22652人、 学校データ 1381校</p>
若者・キャリア形成	<p>National Longitudinal Study of the High School Class of 1972 (NLS-72): [ICPSR 8085] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/08085.xml</p> <p>http://nces.ed.gov/surveys/nls72/</p> <p>「全国高校1972年卒業生の追跡調査」</p> <p>全米／高校卒業年／2年後／4年後／7年後／14年後（平均32歳）</p>	<p>1972年に高校最終年であった人を対象に、教育、職業、個人的成長をたどる調査。個人、家族、社会、制度、文化が、どのように成長に影響するか。学生について、広く情報を集める。能力、社会経済的地位、家庭背景、地域の環境、人種、調査時における活動、教育、学校での経験、就業状況、成果と満足感、目標の方向、結婚や家族、軍隊経験。</p> <p>(United States Department of Education. National Center for Education Statistics)</p>	<p>1972年のベース調査では、学生の個人・家族について、教育、仕事の経験、計画、期待、態度、意識をたずねた。</p> <p>1973年の追跡では、回答者の教育や就業活動、高校を出て以降の教育経験、将来の計画と予定。</p> <p>1974年：仕事と教育についての項目を補強。</p> <p>1976年：大学院に応募したか否か、入学したかどうか、仕事上の管理、性役割、性人種の偏見、高校時代の主観的評価。</p> <p>1979年：前の追跡と同様の質問だが、いくつか変更はされている。</p> <p>1986: 5回目の追跡では、平均年齢が32歳になっており、高卒後14年過ぎている。結婚歴、離婚、養育費、家族での経済的な関係性に関する質問を追加。</p> <p>* 学校のデータ (回答者の卒業学校からの成績やカウンセラーからの情報)、学校組織情報、成績システム、時間割など。回答者</p>	<p>1971-92年度、全国の公立私立学校の12年生。障害をもつ人のための学校や特別の訓練学校等に行っていた人は含まれない。</p> <p>1972年：層化2段抽出。600の層から、2つの学校が選ばれ、単純作為抽出で18人を選ぶ。</p> <p>ベース調査: 1972年春、1回目追跡 1973年10月—1974年4月、2回目追跡 1974年10月—1975年4月、3回目追跡 1976年10月—1977年5月、4回目追跡 1979年10月—1980年5月、5回目 1986年3月～9月。</p>	

		<p>況、親としての期待。1997と1998年には、軍隊サービス職業適性検査の調査票が使われ、10の検査で、数学や言語の力を測定。</p>	<p>式にする。 1999-2000には、高校の成績記録。*</p>		
<p>労働 ・ 家族形成 ・ 家族生活 ・ 若者 ・ 中高年</p>	<p>National Longitudinal Surveys of Labor Market Experience [ICPSR 7610] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07610.xml 「労働市場における経験に関する全国縦断調査」 全米 / 14-24 歳・30-44 歳・45-59 歳 / 毎年計 1 2 回以上 / 1 3 年後に新コホート追加、毎年。</p>	<p>5つの調査。年齢・性別の違いによる労働経験の違いを捉える。 中高年 (1966年に45-59歳) 成人女性(1967年に30-44) 若い男性(1966年に14-24) 若い女性(1968年に14-24) 若者(1979年に14-21歳) 1960年代調査コホートは、12回以上追跡調査がおこなわれ、1979年コホートは毎年追跡。 (Center for Human Resource Research, The Ohio State University)</p>	<p>労働経験 (労働力参加、失業、職歴、転職)、社会経済的、人的資本 (教育、研修、健康や身体の状態、結婚・家族状況、金銭状況、仕事への意識)、環境的特徴 (地域の労働力の規模と失業率) 若者調査：教育での目標、高校大学経験 (就学経験?)、高校の特徴、つきたい職業や期待、軍隊サービスについて。 女性への調査：出生力、子ども世話、家事の責任、親のケア、ボランティア活動、女性の働くことの意識、職場での差別。 成人、中高年の男女については、退職などが近づく年齢になるのに伴い、退職プラン、健康状態、年金受給などの質問を加える。 1979年コホート：最後に行った高校、とこの成績記録、学力・知能検査得点、軍隊サービス職業適性検査の得点、警察補導をふくむ不法行為への関与、アルコール、ドラッグ使用。 1986-1988年の調査では、認知的・社会的情緒的なものの検査を含む。 1979年コホートの女性の子ども約7000人の子ども 調査開始時に同世帯に住んでいた別調査への参加者同士の関係性の記録 (夫婦、母娘、兄弟姉妹など)、1978年から最も最近の就業状況を週ごとに追う、母子サンプルでは、女性のサポートネットワークの詳細 (1983-85年の調査で面接した女性 6308</p>	<p>各コホート約 5000 人 (アフリカ系 1500 人、白人 3500 人)。最低 2 年に一度インタビュー。3 分の 2 が継続している。 1957-1964 年生まれから、3 つのクロスセクションナルのサンプル。 ・ 1979 年 1 月 1 日現在で 14-21 歳の施設に入っていない市民、6,111 人、 ・ ヒスパニック、アフリカ系、他の人種で経済的に恵まれていない人を、オーバーサンブルした、5296 人 ・ 1979 年 1 月 1 日現在 17-21 歳で、1978 年 9 月 30 日時点で軍隊に入っていた人 1280 人。 軍の人の調査 1979-1984 年。他は 1966-1992 (要チェック) 年。 個人面接と自記式</p>	<p>回収率は 90%以上を維持。</p>

	<p>Medicines for Medicare Beneficiaries [CPSR 9340] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/09340.xml</p> <p>「全国医療費調査＋メデイケア受給者調査」</p> <p>全米／全年齢・高齢者重点／約2年間・4ヶ月毎、5回</p>			<p>調査 I : 54 歳以下 (N=27,404), 55-64 歳 (N=3,206), 65-74 歳 (N=3,523), 75-84 歳 (N=1,826), 85 歳以上 (N=450)。</p>	<p>(N=1,685), 85 歳以上 (N=409)</p>
<p>9 6</p>	<p>健康・介護サービス施設利用</p> <p>National Nursing Home Survey, 1985 [CPSR 8914] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/08914.xml#</p> <p>National Nursing Home Survey Followup: Wave I, 1987 [CPSR 9813] Wave II, 1988 [CPSR 9838] Wave III, 1990 [CPSR 6142] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06142.xml</p> <p>「全国高齢者介護施設調査」</p> <p>全米／高齢者／2年後／3年後／5年後・4回</p>	<p>1985年調査では、アメリカにおける高齢者施設各種、その他の関連施設やサービス、それらの施設の入居者と元入居者についての情報を収集。サービスの受け手と担い手の双方の視点から調査。</p> <p>(United States Department of Health and Human Services, National Center for Health Statistics)</p>	<p>患者については、人口学的属性、婚姻状況、以前の居住地、健康状態、受けたサービス、以前使っていた人には、ケアの結果、家族に対しては、電話による調査を行い、以前のケアや社会経済属性をたずねた。施設データには、規模、経営者、メデイケアやメデイケイド認証、入居率、ケアをする日数などの情報を得た。</p> <p>対象者の動態、生活形態、高齢者施設で過ごした日数、入院日数、病院と施設への支払い元。第3波では、動態情報、前回調査以来の施設や病院の利用、現在の生活形態、費用の支出、対象者の家の状況。第3波のみで訊ねた項目。187人は調査不能。</p> <p>ベース：1985年8月-86年1月 第1波：1987年8-12月 第2波：1988年7-11月 第3波：1990年2-4月</p>	<p>アメリカの1982年全国施設名簿や名簿調査から、高齢者施設であればどのレベルのものも含む。1982年-1984年にできた施設、病院ベースの高齢者施設を含む。</p> <p>層化2段階確率抽出法。まず、施設をえらび、そこから入居者を選ぶ。1220の施設が選ばれた。81%の近親者等が回答。</p> <p>第1波：近親者等の調査前に、死亡していなかった場合には含まれる。近親者調査に含めなかった場合でも、調査機関中、対象施設に入っている人は、含まれる。</p> <p>第2波：第1波で調査され、施設追跡は必要ない人、第1波で調査され、施設追跡が必要な人、第1波で調査員ミス等で、調査されなかったが、死亡は確認されていない人。 第3波：第2波で調査が完了し、調査時に生存していた3121人。</p>	<p>第1波：6,001人 第2波：3,868人 第3波：3,041人。</p> <p>現在の入居者の5238人中5200人の内訳： 65歳未満(N=554), 65-69歳(N=266), 70-74歳(N=433), 75-79歳(N=709), 80-84歳(N=993), 85-89歳(N=1,065), 90-94歳(N=903), 95歳以上(N=277)。</p> <p>過去の入居者6,017人中5,928人：65歳未満(N=594), 65-69歳(N=300), 70-74歳(N=526), 75-79歳(N=870), 80-84歳(N=1,203), 85-89歳(N=1,222), 90-94歳(N=826), 95歳以上(N=387)。</p>

9	<p>医師の教育と意識</p> <p>National Survey of Attitudes and Choices in Medical Education and Training (ACMET) II, 1997 [ICPSR 3317] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03317.xml</p> <p>「全国医療教育とトレーニングに関する意識と選択の調査」 全米/医学生 1年/3年後・6年後</p>	<p>ACMET I (1994)</p> <p>1994年と1997年で、医学生、研修生、教授の継続調査。プライマリケアやそれを専門とすることについての意識の変化を調査する。</p>	<p>プライマリケアと専門医のキャリア選択、研修先の選び方に関連する要因、教員が医学生や研修生に与える影響、選択、インターン（外来、院内患者、救急がいり、管理ケア、長期ケアなど） 年齢、性別、婚姻状況。人種、医学部に通うための借金、専門領域。</p>	<p>アメリカの4年制医学部1年、4年、卒業後3年目のインターン、専任教員、内科と小児科のプライマリと専門領域の学科長、医学部理事。 層化確率抽出。アメリカ医学協会とアメリカ医学部協会のリストから。プライマリケア医をオーバーサンプリル</p>	<p>2162人。</p>
7					
9	<p>生活意識</p> <p>National Survey of Black Americans, Waves 1-4, 1979-1980, 1987-1988, 1988-1989, 1992 [ICPSR 6668] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06668.xml</p> <p>全国/アフリカ系アメリカ人 18歳以上/9年後/10年後/13年後 計4回</p>	<p>アフリカ系アメリカ人に関する実証に基づいた、概念、指標、方法を開発するための調査。</p>	<p>地域に溶け込んでいるか、地域とのコンタクト、犯罪、宗教や教会の役割、身体的精神的健康、自己評価、満足感、失業、人種が仕事に与える影響、家族や友人との交流、人種に対する意識、アイデンティティ、ステレオタイプなど。属性、政治行動と帰属意識。</p>	<p>全国多段階確率抽出。すべてのアフリカ系アメリカ人世代の抽出される確率を同じにしている。</p>	<p>1波:2107人、2波 951人 (1からは935人)、3波 793人 (2派からは779人)、4波 659人 (1,2派から28人、3派から623人)。</p>
8					
9	<p>健康・生活</p> <p>National Survey of Personal Health Practices and Consequences [United States], 1979-1980 [ICPSR 8220] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/08220.xml</p> <p>全米/成人/2年間・2回</p>	<p>身体に関わる行動と身体的健康状態を調べる。 (United States Department of Health and Human Services, National Center for Health Statistics)</p>	<p>栄養、運動、睡眠、喫煙、飲酒、体重、口腔衛生、シートベルト使用、疾病による予防行動の変化、健康状態の自己評価、体力、予防医療の利用、血圧に関連した医療サービスの利用、仕事の状況、仕事のストレス、身体的負担、社会活動や宗教への参加、最近のストレスフルな出来事、属性。</p>	<p>全国確率標本。</p>	<p>1979年 3025人。 1980年 2436人。</p>
9					

1	若者と親の政治意識	政治意識が、親子の間でどのようにに伝わり、また変化するのかを調べる。	政府と政治家のアクセシビリティのしやすさ・反応の有無・信頼度・わかりやすさ、言論や集会の自由の重要性、利益団体の影響をどう捉えているか。リベラル-保守的尺度による政治家の評価、1996, 1992, 1988年の投票について、政治参加、ボランティア経験、インターネットアクセシビリティ・労働組合・活動団体などが意識に与える影響、世界の中でアメリカの役割など。アメリカの政党の役割、犯罪者の権利、マリファナの合法化、男女平等についての意見、人間の信頼度、親と比較した生活レベル、エスニシティ、性的指向。	1965年の「若者と親の調査」(Youth-Parent Socialization Study)に参加した若者と、その若者の15歳以上の子どもを対象とした調査。	2780人	
0	National Survey of Third Generation Members of the Youth-Parent Socialization Study, 1997 [ICPSR 3926] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03926.xml					
0	National Survey of the Japanese Elderly, 1987 [ICPSR 6842], 1990 [ICPSR 3407], 1993 [ICPSR 4145] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06842.xml http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03407.xml http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/04145.xml	(日本) 全国高齢者調査。	属性、人とのつきあい、社会的サポート、健康状態、ウェル・ビーイング、精神的健康状態(生活満足など)、心理的指標(遭遇した出来事、コントロール、自己評価)、経済状態、記憶、調査員の観察など。	日本に住んでいる60歳以上の日本人。全国2段階別。1波は1987年、3年間の追跡調査。		
1	高齢者・健康・生活					
0	日本					
1	子ども	対象の子どもが2歳になるまでの2年間、定期的に親と会い、子どもの行動に関して数多くの分野のインタビュアーを行った(例えば、睡眠、食事、入浴、トイレ、動き、社会的責任、知覚機能など)。子どもの年齢があがるにつれ、データ収集は子どものインタラクティブ性が見られる他の状況を合めるために拡張された。	対象の子どもが2歳になるまでの2年間、定期的に親と会い、子どもの行動に関して数多くの分野のインタビュアーを行った(例えば、睡眠、食事、入浴、トイレ、動き、社会的責任、知覚機能など)。子どもの年齢があがるにつれ、データ収集は子どものインタラクティブ性が見られる他の状況を合めるために拡張された。	133人の白人中流階級の幼児(男子66人女子67人)およびその家族。1956年に最初にコンタクトされ、1988年まで頻繁にフォローアップ。	133人	子ども3歳時：100人の母親および93人の父親
1	New York Longitudinal Study (ds1126) 1956-1988	パーソナリティの変数(気質、不安、適応、自己イメージ)の発達、認知的発達と学術的成績、家族構成と機能、親子関係、身体的症状、仲間との関係、セクシュアリティの発達、薬物使用と濫用、職業的興味とキャリア発達、健康と				
0	「ニューヨーク長期研究」					
2	ニューヨーク/出生児一成人/32年間					